

令和6年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立馬込小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・造形的視点を発達段階に沿って活動の要に組み込むことで、工夫して表す力を育んだ。
- ・思考を働かせる題材の工夫により、表したいことや主題を見付ける力を育んだ。
- ・鑑賞活動の充実により、活動に対して意欲的に取り組んでいこうとする態度を育んだ。

(2) 課題

- ・諸活動を通して計画的に材料や用具を幅広く扱うようにし、十分な経験や技能を育む必要がある。
- ・対話を通して、思考を広げたり、深めたりすることができるようにしていく必要がある。
- ・教師の指導の工夫により、児童の創造しようとする態度をより一層支えていく必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

・低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童は、形や色、それらの組み合わせなどの感じについて気付いている。低学年では、のりやはさみを十分に慣れ親しみ、繰り返し扱っていく。	児童は、好きな形や色を選ぶことができている。自分の表したいことに自信をもていない児童に寄り添い、表現のよさに気付けるように関わっていく。	児童は、楽しく表現することができている。好きなところを見つけて友達に伝えることを楽しんでいた。自分の作品の面白さに気付いたり、楽しんだりできるように題材設定や導入を工夫していく。

・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童は、形や色、それらの組み合わせなどの感じについて、よく工夫しながら表している姿が見られる。中学年になり、使う用具や材料の幅も大きく広がるため、それらを適切に扱う力を身に付けさせていく。	児童は、題材で示されたお題を基に、自分なりに表したいことを見付けながら活動に取り組むことができている。対話を通したコミュニケーションを図ることによって、アイデアをさらに広げたり、深めたりすることができるようにしていく。	児童は、活動に対して粘り強く意欲的に取り組んでおり、つくりだす喜びを味わっている。高学年に向けて、多面的、多角的に経験を味わわせながら、表現することに自信をもって取り組める姿を確固たるものにしていきたい。

・高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
児童は、材料や用具に関する経験が身に付いており、経験や技能を総合的に生かしながら表現に活用している。引き続き、広く材料や用具を扱う場面を指導に組み込んでいく。また、高学年で身に付けさせたい造形的な要素を取り上げる場面を、題材の中に計画的に組み込むことで、造形的な工夫を込める力を育んでいく。	児童は、教師を日々驚かせる様な創造的な発想の豊かさを見せている。そこに至る一人一人のストーリーや思考を十分に見取りながら、教師が寄り添い対話していくことで、発想のよさや工夫に対する児童自身の認知を確立していくことができるように、価値づけを行っていくようにする。	児童は、自分の表現に対して、主体的に、自信をもって取り組むことができている。一方で、淡々とこなす傾向も出てきた。達成感のある題材や、思考を深めていく方向性をもった題材をつくり、行うことで、自分の作品作りに「愛」を込めて取り組めるようにしていく。

